巻頭言　2010年度会長挨拶

厳しい時代だからこそ
明るい放射光科学の発展を！

日本放射光学会会長
尾嶋正治

あけましておめでとうございます。今年も明るい放射光を使った面白いサイエンスが続々と生まれることを期待しています。

昨年10月から第15代日本放射光学会会長に就任し，その責任の重さを痛感しています。昨今，日本経済の停滞が声高に叫ばれ，予算面で基礎科学への風当たりが強くなっていますが，むしろこういう時代だからこそ科学・技術で明るい話題を作り出し，人々に夢を与えてみんなを元気にさせる必要があると思っています。その点で，「夢の光」放射光は最適なツールだと思いますが，一般の人にはなかなか分かりにくく，放射光の広報活動は下手だなと（自省も込めて）強く感じていました。1982年にフォトンファクトリーが運転を開始した時に施設長の高良和武先生が率先して「放射光のセールスマン」を務めておられたことをよく覚えています。放射光が当たり前になって来た現在，高良先生のような情熱が薄れつつあることを危惧しています。

そこで，この２年間の学会執行部方針を下記５つに定め，評議員会で承認して頂きました。

1. 放射光広報活動，学会会員の増加：会員1500人を目標にし，放射光学会誌や講習会を充実させるとともに，一般向け，SSH 向け，産業界向け活動を充実させます。その一環としてブルーバックス「放射光で見る物質のしくみ～ナノテクから生命，地球の起源まで～」の発刊をめざします。
2. 新しい放射光科学の推進：将来計画（次期光源計画）を含めた放射光科学のビジョン・ロードマップ策定をめざします。
3. 若手研究者の育成：奨励賞，および「若手を中心とした研究会」を継続します。
4. アジア・オセアニアの放射光科学のリーダーシップ：「アジア・オセアニアフォーラム」（AOFSRR）の継続と発展，ならびに SESAME 支援を通じて国際的な貢献を行います。
5. 財政基盤の確立

多くの学会が林立する中で学会として力を発揮するには1500人の声が必要だと思います。昨年１月に東大安田講堂で20周年記念式典と市民講座をやり，700名が集まってくれましたが，30周年，40周年を発展的に迎えるには最低限1500人の会員が必要だと考えています。財政基盤の確立も急務です。会員増強および広報活動のために高校生にも理解できる分かり易い本を出版したいと考えています。また，アジア・オセアニアの４カ国で３GeV クラスの第３世代光源が運転あるいは計画されている現状をしっかりと見つめて将来計画を作ると同時に，アジア・オセアニアとの連帯を固くする必要があります。

昨年末に行われた事業仕分けは放射光科学にとって大変厳しいものでしたが，闘う科学者，闘う学会になって国民の支援，他学会との連帯の中で課題を克服していきたいと考えています。今年もよろしくお願いいたします。

(C) 2010 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research